

「公衆衛生」第 82 巻総目次

2018 年(第 1 号～第 12 号)

数字は通巻頁数, () は号数

特 集

◆ 82 巻 1 号「感染症に関するサーベイランス」

感染症サーベイランスの基本概念と、国際的な対策の目標を有するサーベイランス：砂川富正, 6(1)

日本における感染症サーベイランスの黎明：谷口清州, 14(1)

病原体サーベイランスの現状と今後の方向性：高橋琢理, 22(1)

結核菌サーベイランスシステムの構築：御手洗聡, 28(1)

国際保健規則を中心とするイベント・ベース・サーベイランス(EBS)の現状と課題：中島一敏, 34(1)

東京都の蚊媒介感染症に対する総合的なサーベイランスの現状：貞升健志, 42(1)

食品由来感染症のアクティブサーベイランスの試み：窪田邦宏・田村克・天沼宏, 50(1)

感染症サーベイランス分野における新しいツールの導入と応用：加納和彦, 58(1)

感染症サーベイランス情報の還元と、地域における活用の取り組み：三崎貴子, 64(1)

◆ 82 巻 2 号「『早期発見』をめぐる課題」

予防対策は医療費を削減できない：康永秀生, 100(2)

自治体における任意型がん検診の現状と課題—PSA 検診はスクリーニングになっていないうえに、過剰治療となっている：岩室紳也, 105(2)

高齢者のがん検診：津金昌一郎, 112(2)

がん早期診断に変革をもたらす新技術の可能性と課題：松崎潤太郎・落谷孝広, 120(2)

新生児聴覚スクリーニング(NHS)の普及に伴う課題と支援・療育：庄司和史, 126(2)

タンデムマス・スクリーニングの効果と課題：山口清次, 132(2)

慢性腎臓病(CKD)の早期発見をめぐる課題：山縣邦弘, 138(2)

高齢者の口腔機能低下—その早期発見の意義と課題：水口俊介, 146(2)

◆ 82 巻 3 号「地域保健法 20 年」

保健所法から地域保健法へ—戦前・戦中・戦後のわが国の公衆衛生の発展：逢見憲一, 188(3)

地域保健法の制定—地域保健法が目指した保健所のあり方：田上豊資, 196(3)

地域保健法施行後の地域保健の発展—「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の改正にみるこれまで、そしてこれからの地域保健の方向性：武村真治, 203(3)

地域保健法と保健所—これまでとこれから：宇田英典, 210(3)

地域保健法施行後の都道府県が設置する保健所の発展：山中朋子, 216(3)

地域保健法施行後の市・特別区保健所の発展：中西好子, 224(3)

高知県における市町村と保健所の連携と協働：川村尚美, 232(3)

地域保健法と地方衛生研究所：調恒明, 238(3)

◆ 82 巻 4 号「地方自治体と公衆衛生—総合性と専門性の確保」

公衆衛生における地方自治・分権の軌跡と展望：斎藤誠, 266(4)

英国地方自治体の組織と人事システム—日本との比較の視点から：稲継裕昭, 274(4)

シティ・マネージャーの私的実践に基づく地方行政の人材考：山田朝夫, 280(4)

英国における大学院公衆衛生学コースの内容と特徴—ロンドン大学衛生学・熱帯医学スクールの事例を中心に：安原義仁, 286(4)

国立保健医療科学院からみた自治体職員の人材育成の歴史と課題：曾根智史, 292(4)

大阪市における公衆衛生医師確保と育成システムの現状と展望：竹内敏, 298(4)

愛知県における社会医学系専門医制度の現状と展望：丸山晋二, 306(4)

自治体保健師の人材育成の現状と課題、そして期待—キャリアラダーを中心に：岡本玲子, 314(4)

英国の地方自治体における公衆衛生—総合性と専門性、リーダーシップ性：高鳥毛敏雄, 320(4)

◆ 82 卷 5 号「発達障害者支援の到達点—新しい支援の枠組みを考える」

発達障害の公衆衛生課題とは何か？—戦後のわが国の障害福祉の源流：西牧謙吾，350(5)

発達障害者支援法が目指すもの：日詰正文，358(5)
子どもの心の発達支援—子どもの心の診療ネットワーク構築：奥山眞紀子，364(5)

わが国の児童発達支援の動向：加藤正仁，370(5)
特別支援教育における関係機関との連携の考え方—特別支援教育の基本と新学習指導要領：田中裕一，378(5)

強度行動障害児(者)への支援の今昔—知的障害児(者)入所施設の実践から：五十嵐康郎，384(5)

もっと知って！児童自立支援施設のあれこれ—「with の精神」で「育て直し」：青木建，390(5)

発達障害者の就労支援の実態と、支援体制の充実に向けた課題：榎本容子・浅賀英彦，397(5)

地域における発達障害者支援センターの役割：岡田祐輔，402(5)

◆ 82 卷 6 号「聴覚障害の早期発見と支援体制」

日本における聴覚障害者の早期発見・支援体制の現状と課題：新谷友良，436(6)

新生児聴覚検査の現状と課題：守本倫子，442(6)
全国規模の症例対照研究から見えてきた、わが国の聴覚障害児発見診断—療育教育方法の違いによる日本語言語発達到達度：中澤操・福島邦博，448(6)
職域における騒音対策の現状と、今後の展望：和田哲郎，454(6)

高齢者の聴覚障害への支援—健康寿命を延ばすために：増田正次，460(6)

先天性難聴児のゲノム診療の意義と動向：松永達雄，468(6)

人工聴覚器の進歩—人工内耳装用児の言語発達を中心に：白井杏湖・河野淳，474(6)

日本における聴覚障害者施策：坂本徳仁，480(6)

◆ 82 卷 7 号「脳性麻痺と産科医療補償制度」

脳性麻痺の疫学：豊川智之，510(7)

産科医療補償制度の発足から今日までの歩み：鈴木英明，517(7)

社会的制度としての産科医療補償制度の意義と今後の課題：小林廉毅，526(7)

脳性麻痺の発生リスク研究における最新の知見：長谷川潤一，532(7)

沖縄県における脳性麻痺児に対する医療と保健の連携—脳性麻痺児が健康で充実した暮らしを送るために：當山潤，539(7)

脳性麻痺発症の防止に対する助産所・診療所と専門病院との連携—宮崎県の取り組みから見えたこと：池ノ上克・児玉由紀・山下理絵・土井宏太郎・鮫島浩，544(7)

脳性麻痺児の在宅支援—NICU 入院児支援コーディネーターを含む病院スタッフと、地域ケア専門職との連携：内田美恵子・今井ゆか・小泉恵子・田村正徳，548(7)

産科医療補償制度の補償対象児に対する看護・介護の状況：湯浅ひとみ，556(7)

患者家族からみた産科医療補償制度：H.C(患者家族)，562(7)

◆ 82 卷 8 号「アレルギー疾患対策」

アレルギー疾患対策の課題と今後の推進方策：斎藤博久，584(8)

アレルギー疾患の発症要因と予防可能性：荒川浩一，588(8)

アレルギー疾患に対する疫学調査の現状と今後の展望：赤澤晃，594(8)

アレルギー疾患医療の均てん化に向けた課題と展望：山口正雄，600(8)

多職種連携による小児のアレルギーケアの推進：楠隆，606(8)

食物アレルギー対策の進歩と今後の展望：今井孝成，612(8)

職業性アレルギー疾患の克服に向けた課題と展望：土橋邦生，618(8)

環境化学物質によるアレルギー疾患に関する行政施策：奥村二郎・東賢一・水越厚史，626(8)

アレルギー疾患対策の課題と提案—患者・家族の立場から：長岡徹，632(8)

◆ 82 卷 9 号「日本における WHO 協力センター」

世界保健機関(WHO)研究協力センターと、その役割：牧野友彦・葛西健，662(9)

日本国内における WHO 協力センターの相互連携体制づくり—その現状と課題：船戸真史・明石秀親・杉浦康夫・野田信一郎，666(9)

結核研究所が世界の結核対策において果たしている役割と展望：加藤誠也，670(9)

久里浜医療センターの依存症の治療と予防における国際的な活動と役割：湯本洋介・樋口進，674(9)

大阪母子医療センターの WHO 指定研究協力センター(母子保健分野)活動—総合周産期母子医療センターとしての強みを生かして：植田紀美子，680(9)

東京医科歯科大学の健康都市の国際協力研究活動における取り組み：中村桂子，686(9)

日本大学経済学部グローバル社会文化研究センターの人口問題研究への国際的な取り組みと課題：松倉力也，690(9)

兵庫県立大学地域ケア開発研究所の災害看護学領域における国際的な取り組み：増野園恵，698(9)

自殺総合対策推進センターの国際的な役割と取り組み：本橋豊，704(9)

◆ 82 卷 10 号「子ども政策の総合化・包括化」

第2次安倍政権以降の女性政策と少子化対策—矛盾と行き詰まりの背後にあるもの：本田由紀，736(10)

近代以後の日本の人口・子ども政策—その変遷と課題：杉田菜穂，742(10)

少子化対策の何が問題で何が必要か—これから望まれること：阿部正浩，748(10)

地方自治体における子ども政策の総合化—その現状と課題：森田明美，754(10)

横浜市における子ども支援政策の総合化・包括化—その現状と課題：増田まゆみ，760(10)

子どもの権利条約から見た日本の子ども政策の課題：荒牧重人，768(10)

乳幼児の社会的養護の現状と課題—英国の家庭養育移行からの示唆：上鹿渡和宏，774(10)

◆ 82 卷 11 号「放射線リテラシー」をめぐる課題」

放射線の種類・性質，健康影響の表し方：酒井一夫，804(11)

自然界の放射線—国内外の自然放射線レベルと高線量地域の放射線量：床次眞司・細田正洋，809(11)

身近な放射線利用—その原理と実際：小林泰彦，816(11)

放射線被ばくの影響と，そのメカニズム：細井義夫，824(11)

放射線防護と医療被ばく：赤羽恵一，830(11)

低線量放射線被曝と発がん・遺伝影響：稲葉俊哉，836(11)

食品に関する指標—内部被ばくの考え方：谷幸太郎，842(11)

放射線とリスクコミュニケーション：入江ふじこ，848(11)

◆ 82 卷 12 号「公衆衛生活動と疫学」

疫学研究と公衆衛生活動—その基本的な理解：中村好一，884(12)

日本における疫学教育の現状と今後の展望：村木功・磯博康，890(12)

これからの環境疫学—エコチル調査の現状と未来：山崎新，896(12)

生活習慣病と疫学—高山スタディの知見から：永田知里，902(12)

日本における臨床研究の現状と，観察データに基づく臨床研究—リアルワールドデータの利用：伊藤陽一，907(12)

日本における Field Epidemiology Training Program Japan(FETPj)の活動：福住宗久・松井珠乃・大石和徳，912(12)

低まん延下での結核の疫学調査—社会ネットワーク分析の応用：森亨，919(12)

スクリーニング検査の有効性評価—ベイズ統計の概念の理解：森實敏夫，926(12)

疾病の発生状況把握における地理情報システムの応用：谷村晋，932(12)

視 点

浜松医科大学における公衆衛生分野の人材育成：尾島俊之，2(1)

大阪市立大学・医学部教育における公衆衛生の人材育成：福島若葉，96(2)

北海道大学大学院における公衆衛生人材の育成：玉腰暁子，184(3)

教育現場で考える「コンピテンシー基盤型」の公衆衛生教育：武林亨，262(4)

ビッグデータ解析力と現場力—医療システムに取り組む能力の開発：今中雄一，346(5)

地方単科医科大学の現状と，地方の人材を増やすための取り組み：西條泰明，432(6)

21 世紀における大学での公衆衛生人材育成：秋葉澄伯，506(7)

富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学講座における社会医学人材の育成：関根道和，580(8)

鳥取大学における公衆衛生の人材育成：尾崎米厚，658(9)

大学における公衆衛生の人材育成—その方策，課題および対処法：安田誠史，732(10)

地域医療に根ざした公衆衛生(社会医学)人材の育成を目指す：石竹達也，800(11)

夢と思考を受け継ぐこと：笠島茂，880(12)

連 載

◆ 衛生行政キーワード・123～129

感染症発生動向調査の概要と今後の取り組み：吉井史歩，70(1)

わが国の対策型がん検診：田中佑典，152(2)

地域保健対策の推進に当たって：知念希和，244(3)

新生児聴覚検査の実施：梅木和宣，486(6)
アレルギー疾患医療提供体制の整備：貝沼圭吾，638(8)
WHOにおける近年のトピックスと日本の取り組み：石橋七生，708(9)
疫学を活用した対策の立案：原澤朋史，937(12)
◆ **いま，世界では!? 公衆衛生の新しい流れ**
WHOによる感染症サーベイランスシステムの構築と実践：西野恭平・進藤奈邦子，75(1)
◆ **ポジデビを探せ!・14~15【最終回】**
カンボジアの子育てと父親の役割：ポジデビ研究の可能性：柴沼晃，172(2)
ポジデビの両輪：実践も研究も：神馬征峰，414(5)
◆ **Coda de Musica 心に響く音楽療法・1~12【最終回】**
人に寄り添う音楽療法，そして終末期医療とは?：三道ひかり，80(1)
音楽と“今”出会う時とは?—アマンダとローズ：三道ひかり，168(2)
最後まで“自分らしく”生きるためには?—エミリーが見た光：三道ひかり，253(3)
愛する家族の最期に何を贈りたいですか?：三道ひかり，330(4)
終末期に希望を見いだせますか?：三道ひかり，420(5)
祝福と痛みの音楽は聴こえますか?—民族への愛と終末期：三道ひかり，490(6)
人生の終わりにどんな一期一会を求めますか?—最初で最後の音楽療法：三道ひかり，570(7)
病室でホッとしますか?—普通であることの癒し：三道ひかり，648(8)
死別ケア—愛する人の想いを受け継ぎますか?：三道ひかり，716(9)
病氣と音楽—あなたのきっかけは「誰」ですか?：三道ひかり，784(10)
チームの一員として—誰と働いていますか?：三道ひかり，868(11)
Finale—音楽療法が照らす新たな光：三道ひかり，954(12)
◆ **ヘルスコミュニケーションと健康な社会づくりを考える Dr. エビーナの激レア欧州体験より・1~4**
欧州のヘルスリテラシーの取り組み—テロの危険も顧みずオランダの王女が出席した国際学会からの学び：蝦名玲子，712(9)
英国ヘルスリテラシーグループ議長へのインタビュー

—ヘルスリテラシー向上のための仕組みと取り組み：蝦名玲子，780(10)
ストック・オン・トレントの健康格差是正に向けた取り組み—WHOヘルシーシティ認定都市でのインタビュー：蝦名玲子，864(11)
外国人患者家族としてのスコットランド体験と学び・その1—衝撃の救急医療現場と外国人患者への対応体制：蝦名玲子，950(12)
◆ **リレー連載・列島ランナー・106~117**
公衆衛生は面白い!—私のキャリアパスから：坂田清美，85(1)
災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)—発足の経緯と今後の期待：尾島俊之，157(2)
保健所長の視点から見た地域医療：木村雅芳，249(3)
地域医療の本質的課題—個別性，継続性，関係性：中村剛史，325(4)
プライマリ・ケアを志す夫婦の珍道中!?：新野青那・新野保路，409(5)
富山市におけるまちなか診療所の取り組み：三浦太郎，495(6)
人口減少地域の医療体制を維持するために—システムの構築と，それを担う人材の大切さ：川尻宏昭，565(7)
岐阜県の新型インフルエンザ対策における保健所の取り組み：久保田芳則，643(8)
青森県における地域診断の試み：大西基喜，721(9)
ポピュレーションアプローチはあなたの職場でも—宮城県における2つの取り組み：相田潤，789(10)
受動喫煙防止対策は行政がオピニオンリーダーであれ：佐藤浩美，859(11)
集まれ!! 災害時に活躍する看護職：野澤美江子，941(12)
◆ **睡眠と健康を考える・1~2**
不眠，睡眠時間，睡眠不足とは?：井谷修・兼板佳孝，854(11)
妊娠婦の睡眠：小橋元・内山浩志・西田恵子・梅澤光政，945(12)
◆ **投稿・地域情報**
2016~2017年のキューバのヘルスシステム：前田恵理子・湯浅資之，163(2)
◆ **投稿・資料**
2004年の新医師臨床研修制度施行以降における，ジニ係数を用いた医師の診療科ごとの地域偏在についての検討：石川雅俊，334(4)

コラム

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

働き方改革—その極意と各企業の良い実践：90(1)
職域における IT 活用の可能性：178(2)
ラジオの収録：256(3)
中小企業の健康経営を考える：340(4)
臨床疫学ゼミ—保健指導の評価：426(5)
予防医療医の春 2018(前編)：500(6)
予防医療医の春 2018(後編)：574(7)
第 32 回国際産業衛生学会参加ダイジェスト(その 1)：652(8)
第 32 回国際産業衛生学会参加ダイジェスト(その 2)：726(9)
初めての Web セミナー：794(10)
健康教育・ヘルスプロモーション研究会のこれまでとこれから：874(11)
国際学会で発表するための講習会：960(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

女の一生：91(1)
ローズの秘密の頁^{ページ}：179(2)
馬を放つ：257(3)
野球部員、演劇の舞台に立つ！：341(4)
マルクス・エンゲルス：427(5)
男と女、モントーク岬で：501(6)
ゲッベルスと私：575(7)
毎日がアルツハイマー ザ・ファイナル～最期に死ぬ時：653(8)
祈り 三部作：727(9)
ブレス—しあわせの呼吸：795(10)
ガンジスに還る：875(11)
彼が愛したケーキ職人：961(12)

◆ 書評

泉孝英(編)八幡三喜男, 長井苑子, 伊藤穰, Simon

Johnson(編集協力)『ポケット医学英和辞典(第 3 版)』：富岡洋海, 248(3)

泉孝英(編)八幡三喜男, 長井苑子, 伊藤穰, Simon Johnson(編集協力)『ポケット医学英和辞典(第 3 版)』：福澤利江子, 339(4)

浦島充佳(著)『《ジェネラリスト BOOKS》外来でよく診る病気ストレスな症例への生活処方箋—エビデンスとバリューに基づく対応策』：今村英仁, 773(10)

浦島充佳(著)『《ジェネラリスト BOOKS》外来でよく診る病気ストレスな症例への生活処方箋—エビデンスとバリューに基づく対応策』：小泉泰郎, 823(11)

Robert Twycross, Andrew Wilcock(編)武田文和, 的場元弘(監訳)『トワイクロス先生の緩和ケア—QOL を高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア』：加賀谷肇, 873(11)

浦島充佳(著)『《ジェネラリスト BOOKS》外来でよく診る病気ストレスな症例への生活処方箋—エビデンスとバリューに基づく対応策』：大谷泰夫, 901(12)

Robert Twycross, Andrew Wilcock(編)武田文和, 的場元弘(監訳)『トワイクロス先生の緩和ケア—QOL を高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア』：恒藤暁, 959(12)

◆ 書籍紹介

板野聡(著)看取り請負人—死なせ屋ゴンがゆく 2018 年, 647(8)

松尾睦(編著)医療プロフェッショナルの経験学習 2018 年, 725(9)

田宮菜奈子・小林廉毅(編)ヘルスサービスリサーチ入門—生活と調和した医療のために 2017 年, 872(11)